

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	20 年 8 月 1 日
事業所名	グループホーム中小田井
ユニット名	2階
事業所番号	2370401164
記入者名	施設長 大宮 雅代
連絡先電話番号	(052)509-7717

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活や「その人らしさ」を大切に、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの人間としての尊厳を保ち、高齢者の潜在能力を發揮させ、穏やかな自立した生活をしていただくよう支援します。 ・その人らしさを大切にして、穏やかな生活を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを決める際には、必ず理念に照らし合わせて方向づけをするようにする。 ・朝のミーティング時に唱和する。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を行い、理解してもらっている。 ・家族には折に触れて話すことはあるが、地域に向けての発信はしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人にも理解してもらえよう活動が必要。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に出かけ、顔見知りの人に挨拶をする。 ・行事の時にはご近所の方にきていただくようお願いしたり、頂き物をお裾分けしたりしている。 ・玄関から建物の中が見えないので、気軽に立ち寄れる雰囲気はない。 	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の保健委員を引き受け、週1回ゴミの分別を行っている。 ・地域のお祭りや清掃活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の喫茶店を利用しているが、もう少し回数を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・取組に力を入れる必要があるが、職員の勤務時間内で実施するのは難しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果に目を通し、改善できるところは取り組んでいると思う。 ・ミーティングで話し合っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・評価内容、改善点などを職員全員に配布し、認識してもらう必要があると思う。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の意見を取り入れ、職員会議の議題にあげて検討したり、報告したりしている。 ・家族からの要望をサービス内容に取り入れるようにしている。 ・運営推進会議の内容が、サービス向上とは余り結びついていないと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでの生活を知ってもらい、運営推進会議の中身を濃いものにしてもらう。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・判断に困る場合に相談したりはするが、市の担当者が来所することはない。 ・市が開催する集団指導には参加している。 ・よくわからない。 		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、研修などで何度も学ぶ機会があった。 ・権利擁護制度を活用している方がいるので、担当者に相談することもある。 ・学ぶ機会はなく、理解していない。 ・今は必要ないと思われる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・制度理解を深めるために、学ぶ場を作る。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は研修に参加している。 ・法について学ぶ機会はない。 ・理念に基づいたケアを実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい資料があるので、目につくところへ掲示をする。 ・虐待にあたる行為の理解をすることが必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと話し合い理解と納得を図っている。 ・話しやすい雰囲気作りに努め、不安や疑問点が言いやすいようにしているが、十分な説明や理解に至っているかどうかは疑問に思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者や家族の目線で話すようにする。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言いやすい雰囲気作りに努めている。 ・不満や苦情は職員に伝えて話し合っ改善している。 ・利用者は認知症があるため、外部者（訪問者以外）へ伝えることができない。 	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の変化や必要物品の購入など、その都度電話で連絡をしている。 ・定期的にお便りを作り、日常のようすなどをお知らせしている。 ・訪問時には最近のようすを伝えている。 ・職員の異動は伝えているが、退職は知らせていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の退職を家族に知らせるようにしたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受け付け担当者を設置している。 ・家族の意見など、反映させるようにしている。 ・運営推進会議での意見が職員会議で報告される。 	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員の意見を聞いていると思う。 ・職員会議で管理者に直接話す機会がある。 ・話すことは可能だが、なかなか難しいと思う。 	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調整には努めているが、必要な人員が確保できていないと思う。 ・行事や受診など事前にわかっているときは増員している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要となれば、勤務時間、体制の話し合い、調整を行う。 ・パートの勤務時間を再検討し、必要な時間帯で募集していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年で管理者が異動になっているがダメージは少ない。 ・管理者や職員の離職、異動で利用者が混乱した。運営者が配慮しているかどうかわからない。 ・異動や離職時は、利用者が不穏とならず、納得できるように工夫して説明している。 ・フロア間の異動は今のところ行っていない。 		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内には誰でも参加できる研修がある。 ・研修は行っているが、皆が参加できていない。 ・研修の紹介を行っている。 		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内やグループ会社との交流はある。 ・研修で顔を合わせると、相談したり情報交換はするが、ネットワークづくりには至っていない。 ・同法人以外では実施できていない。 		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より法人内に相談窓口ができた。 ・長期休暇制度がない。 ・休みの数はしっかりしているが有休休暇が取りやすい勤務体制にない。 		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者を中心に行っている。 ・努めているかもしれないが、あまり反映されていないと思う。 ・役割の変更をした 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人とコミュニケーションをとり、ご家族からも生活歴などを聞き、不安がないよう支援している。 ・見学及び日帰り体験利用ができる。 ・自宅へ訪問し、実態調査をしている。 ・本人より家族からの情報が中心となっている。 ・急な入所で本人のことが知れずにいることがある 	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの特徴を説明し、個別の問題に照らし合わせて、入所が問題解決の手段として適当かどうかを話し合っている。 ・家族とコミュニケーションを取るようになっている。 	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくサービスを組み合わせることで在宅生活の継続ができると判断した時にはアドバイスをしている。 ・他の施設利用の相談を行っている。 	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人が帰りたいとおっしゃった時の家族の受入について話し合うようになっている。 ・体験入所や見学の機会を設けている。 	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事作りや洗濯、掃除など、できるだけ一緒にやり、生活を共にできるように努めている。 ・利用者の話を傾聴するようになっている。 ・利用者の隣に座る、寄り添いケアの実施。 ・レクリエーションに職員も参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての職員が同じ考えをもてるようにしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時に話を聞いている。 ・家族の立場に立って話をするように気をつけ、相談しあったり世間話をしたりしている。 ・投げやりになってしまうが、いるため、家族との関係がうまくいかないことが多い。 		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との関わりを多く持つことができていない。 ・家族にも子どもを中心とした家庭があり、疎遠を改善することは難しい。 ・よりよい関係が築いていけるように、情報提供に努めている。 		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも面会できるようにしている。 ・馴染みの場所への外出や電話連絡など、希望があればできるだけ対応している。 ・遠かったり職員が足りず、できない。 		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の性格を把握し、穏やかに過ごせるようにしている。 ・コミュニケーションを積極的に取っている。 ・職員が常に話しかけている。 ・常により関係を築いていくことができない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が孤立しないように努める。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・大切にしていきたいが、退所後は他施設への入所や入院が多いため、難しい。 ・必要とする場合はできている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向や希望の把握に努め、わからないときには家族に聞くなどしている。 ・介護する側本位にならないよう、職員同士話し合う場を設けている。 ・利用者の思いの把握に努めている。 ・暮らし方などほとんどがホームの都合になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士の基本のような研修にもっと皆が参加し、意識の向上に努めてほしい。
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人から情報収集を行っている。 ・個人ファイルや引き継ぎなどで把握に努めている。 ・事前調査で、グループホームでの生活で活かせることはないかなど把握に努めている。 ・生活環境など、家族からの情報は得ているが、うまく活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居室をもっとその人らしく、過ごしやすくしたい。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの生活リズムや行動パターンを把握するようにしている。 ・いろいろな場所で常に観察している。 ・職員間で情報交換を行い把握に努めている。 ・記録に残し、把握している。 	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議など、意見を反映し、介護計画につなげている。 ・家族から意見を聞く機会を作っていない。 ・日頃から職員同士で話し合っている。 ・ケース会議等しっかり行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成の流れを作っていきたい。 ・作成担当者の業務時間の確保をしていきたい。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議など、意見を反映し、介護計画につなげている。 ・必要なときには、その都度話し合っている。 ・計画の見直しができていない。 ・特変等も記入し、共有できている。 ・現状に即した介護計画になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン見直しの流れを作っていきたい。 ・作成担当者が見直しの業務時間を確保したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人ファイルにより日々の記録をしている。また、申し送りノートにより情報の共有をしている。 毎日ケアプランに対して評価は行っているが、見直しに活かされていない。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別の外出や買い物、受診など支援している。 臨機応変に対応している。 他の資源との協働はしているが、本人と他の資源が直接関わることは少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> 共同型通所介護や短期入所を検討している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの訪問がたまにある。 		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検討したが、利用に至らなかった。 定期的に行っている。 		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訪問マッサージや訪問利用がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後は必要に応じて検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの囑託医により2週間に1度往診をしてもらっている。 ・必要なときは他の科の受診を支援している。 ・ホームのかかりつけ医以外の受診も可能であるが、できるだけ家族にお願いしている。 		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の専門医にかかっている方の受診に同席し、日常のようすを伝えたり、相談をしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・専門医と連携を取りたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の訪問看護と連携して、相談やアドバイスをもらっている。 ・急変時や特変時にも対応してもらっている。 		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供に努め、情報を共有している。 ・連携はとれていない。 		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合など、早いうちから医師に相談したり家族に相談したりしている。 ・直接かかりつけ医から家族へ状態を伝えていただき、理解してもらうようにしている。 ・方針の共有はできていない。 		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況は把握するようにしている。 ・グループホームで重度化した利用者の対応は難しい。 ・「できること、できないこと」を早く見極めて家族とかかりつけ医とともに検討している。 ・チームとしては取り組んでいない。 ・緊急時の対策はマニュアルが作成されている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人内に特養などの施設があり、連携を取り、入所を検討することができる。 ・情報交換をし、本人にとって良い方向に向かうようにしている。 ・情報交換が多くできているとは思わない。 	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや声のかけ方など、気をつけている。 ・常に利用者を尊重してケアに取り組んでいる。 ・徹底できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人記録の置き場所に気をつけたい。 ・鍵付きの戸棚に保管するなど検討する。 ・名前の表示を検討する。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の言いたいことを引き出せるように心がけている。 ・食事に選択食を取り入れている。 ・就寝時間も一人ひとりに合わせるようにしている。 ・自己決定の場はほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の参加では、施設の都合が優先されやすいので、気をつけたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のペースに合わせてできる限り動いている。 ・職員の都合でほとんどの生活が動いている。 ・その日の希望を聞くと対応できなくなるので、できる範囲で実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントや日常生活の中から利用者を把握していく。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2カ所の訪問理美容を利用し、好きな方を選択できるが、店に行くことはできない。 ・行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その人が行きたいお店に行けるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度ハイキングや選択メニューを取り入れている。 ・食事メニューは利用者の好きなものを取り入れている。嫌いなものや食べられないものは別の物で対応している。 ・食材買い物、準備、調理、片づけを利用者と一緒に行っている。 		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・健康面や家族の要望によりお酒、タバコは提供していないが行事の時のみお酒を出している。 ・おやつは好みの物を中心に出している。。 ・支援できていない。 ・一部の方はスーパーで買ったお菓子を自己管理している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋に小型冷蔵庫を置いたり、置いても大丈夫な支援をしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツであっても、定時で声かけ誘導をして、トイレでの排泄を促している。 ・利用者に合わせてオムツやパットを使用し、紙パンツから布パンツに変更できた方もいる。 ・一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。 		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日入浴できるが、午後の時間に限られる。 ・一人ひとりのタイミングに合わせてゆったり入ってもらえるように心がけている。 ・拒否などで2、3日入らない方は声かけを工夫し、促している。 ・職員の都合で入浴を行っている。 		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣やその日の体調により、入床、起床の声かけを行っている。 ・掛け布団や毛布など、使い慣れた物があれば、それを使っている。 ・できるだけ日中の活動を促し、夜に眠れるように努めている。 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と話したり、アセスメントシートなどから生活歴を知り、その方にあった対応をしている。 ・気晴らしはなかなかできない。 ・近くの喫茶店にコーヒーを飲みに行く。 ・ちぎり絵を季節ごとに作成。 ・一人の利用者に偏りがちなになり、すべての利用者は実現できていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・近くのコミュニティーセンターで行われているカラオケ教室や書道教室に参加できると良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・管理できる利用者には本人持ちの財布にて管理しているが、多くは管理が難しく、事務所で預かっている。 ・家族の希望で本人が所持し、必要に応じて出している。 ・ほとんどできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・財布、お金を持ち、管理したり使用する大切さを持ってもらいたい。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーへの買い物、散歩、喫茶店の利用などを行っている。 ・出かけているが、散歩や買い物、ウォーキング、喫茶など決まった方が多い。 ・希望に添えず、行事のあるときに外出している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・外へ出る利用者は決まっているが、他の方も外出させたい。 ・日常的に外へ行く機会を持って生活していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、家人にも声をかけて、日帰り旅行を行っている。その他外食、外出も定期的に行っている。 ・個別に買い物に行くときもある。 ・すべてはできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家族、利用者の希望で個別の外出をする。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・機会は少ないが、希望者には支援している。 ・相手の了解が得られれば、希望に添ってかけられる。 ・手紙のやりとりをしている方もいる。 ・携帯を持っていて直接電話をされる方もいる。 ・できていない。 		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも面会できる。 ・職員は、明るい笑顔で接するように心がけている。 ・訪問時は、居室などで落ち着いて過ごしてもらえるようにしている。 ・何も工夫していない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・応接間のような場所や他の利用者の目を遮る物があるといい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束をしないケアはできているが、正しい理解はできていない。 ・みんなが気をつけていて身体拘束は行っていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が学ぶ必要がある

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に鍵をかけないケアは実践している。 ・今までは鍵をかけたことはないが、最近入所された方で落ち着きがないときに職員が一人のみで対応できないときに、一時的に鍵をかけている。 ・やむをえない場合のみで 理由と時間を記録している。 		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・所在確認に努めている。 ・居室には本人に気づかれないようにようすを確認している。 ・夜間は1時間おきに巡視をし、物音がすれば必ず確認している。 		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・爪切り、ひげそりなど自分で使用、管理できる方は、居室に保管している。 ・利用者の状況に合わせて管理方法を考える。<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取組はできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一律になくすシステムは見直すべき。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ひやりハットや事故報告書において、今後の事故防止や改善策を話し合っている。 ・行方不明、火災はマニュアルがある。 ・マニュアルはあるが、きちんと研修のような形では学んだりしていない。 ・事故防止に素早い対応ができていない。 		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・目につくところに急変時のマニュアルがある。 ・スタッフ全員が定期的に消防署で応急処置の講習を受ける事を目指しているが、まだ一部の職員にしかできていない。 		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回防災訓練や避難訓練を行っている。 ・ホーム内だけの避難訓練は行っているが、いざという時には心配である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域、特に隣近所の方に協力を呼びかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・病気やけがなどのリスクについては、必要に応じてその都度話し合うようにしている。 ・入所時、入所後は状態変化があるたびに、家族に連絡、相談をしている。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルチェック、食事摂取量など常に状態観察を行っている。異変が見られるときは職員間で情報の共有をし、上司、看護師、かかりつけ医へ連絡を取り、指示を仰ぐ。 ・ご本人のようすから、早期発見に努めている。 		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・往診後に体調の変化や薬の変更を申し送りノートに記入しているが、全職員が把握していないと思う。 ・薬の処方箋は個人ファイルに綴じて、いつでも確認できるようにしている。 ・薬の目的、副作用がしっかり理解されていない。 ・服薬チェック表にて、誤薬の予防をして 		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分、食事量などに気をつけ、マッサージをするなど自然排便に努めている。 ・便秘時は、薬に頼ることが多い。 ・便秘予防はできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・乳製品や食物繊維を多く含む食品の摂取や体操なども行っていけると良い。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝はうがいのみが多く、昼は行っていない。 ・夜は、歯磨き、義歯洗浄後に入れ歯保存液につけている。 ・毎食後の口腔ケアができていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアの実施。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一ヶ月分の献立を立てた後、他施設の管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスを受けている。 ・食事量水分量を毎回チェックし、記録している。 ・医師の指示により水分制限がされる場合は、少なめにコップに入れている。 ・栄養の偏りが出ている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防や対応マニュアルがあり、実施している。 ・感染予防マニュアルはいつでも見られるようにしている。 ・玄関に消毒液を設置し、手洗い、うがい、消毒に努めている。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・包丁、まな板、ふきんなどの消毒は每晚行っている。 ・冷蔵庫の取っ手の消毒、庫内の清掃、食材の賞味期限などに気をつけている。 ・食材はほぼ毎日購入し、冷蔵庫に温度計を設置するなど、管理に努めている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関はバリアフリーになっており、車いすでも入りやすい。 ・庭の花壇や玄関周りに花を植え、明るい雰囲気を作っている。 ・利用者の共同作品の展示など、家庭的で親しみやすい雰囲気にしている。 		・24時間人がいるので、子ども110番の家に適していると思う。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂に入浴剤を入れたり、一人ずつ入浴をするなど、プライバシーは守られている。 ・玄関、居間、廊下には季節が感じられるような共同作品を飾っている。 ・毎日の掃除で清潔を保ち、居心地よく過ごしている。 ・庭の花は手入れがされており、季節を感じることができる。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにはソファが置かれ、のんびり過ごせるようになっている。 ・自室で話をされることはあるが、友達同士で落ち着いて話せる共有スペースがない。 ・和室が空けてあるが活用できていない。 ・共有空間では一人の居場所を作ることはできない。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使っていた家具を持ってきてもらい、できる限り今までしてきた生活と同じようにしている。 ・本人の意向で使いやすいように配置している。 ・転倒などの危険がないように配置している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・その方が、居心地よく過ごせるようにしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の清掃時は必ず換気をし、空調温度も利用者に合わせている。 		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむねできている。 ・手すりが多く取り付けられているが、繋がっていないところでは、危険だと思ふことがある。 ・必要なところに手すりが無い。 		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の入り口に表札やのれんをつけている。 ・混乱や失敗を防ぐために利用者の力を活かさず、職員が手をかけてしまうことが多い。 ・トイレ、風呂場など掲示しているが、あまり意味がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・何でも職員がしてしまうのではなく、失敗しても良いのでという気持ちで利用者のできることを増やして生けたらと思う。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダが狭く、活用することができない。 ・1階のベランダでお茶を飲んだり、バーベキューをしたりして楽しんでいる。 		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)